是川小

主体的で対話的な授業づくり

～多様な考えをつなげて話す楽しさ～（３年計画の４年次）

校長　新山　聡

１　研究主題について

本校では、教育目標「学ぶことの喜びと確かな力をもつ是川の子」、努力目標「考えを表現する子」を掲げ、主体的に学習に取り組む子供を育てることを目指している。そのためには、児童が「学びたい、話し合いたい」という意欲をもって学んでいける授業づくりをすることが大切である。問題解決的な学習の中で、対話を通して学ぶ楽しさを感じさせることにより、主体的に学習に取り組む子供を育てることができると考え、本研究主題を設定した。

昨年度までに、「主体的で対話的な授業づくり」という研究主題のもと、問題解決の必要感をもたせる発問や題材の提示の工夫を行い、児童が自分の考えをもって議論ができるよう促すことに取り組んできた。その成果は以下のとおりである。

〇児童が身に付けるべき学びの力を明確にし、問題解決的な学習が成立するような授業づくりを行った。特に、解決しなければならない問題を児童自らが見つけられるように資料提示や発問などを工夫したことにより、児童は最後まで問題解決への意欲をもって取り組んだ。さらに、その意欲がきっかけとなり、自分の考えを友達の考えとつなげて話す様子も見られるようになった。

〇他者の意見と自分の考えをつなげて話し合う力を高める指導を工夫した。その際、教師の働きかけの工夫として、構造的な板書を含めたファシリテーションが有効だと分かった。ファシリテーションの工夫により、比較、類推、言い換え、付け足し、仮定などのものの見方・考え方ができるようになった。そして、児童同士の話合いがつながるようになり、「つなげて話す」ことへの児童の意識が高まった。

今年度は昨年度同様に、つなげて話す意識をもたせる働きかけの工夫をして、主体的で対話的な授業づくりを行っていく。そして、みんなで話し合って解決する楽しさを繰り返し（日常的に）感じさせることにより、主体的で対話的な学びができるように育てようと考え、副題を「多様な考えをつなげて話す楽しさ」と設定した。

２　研究のねらい

児童が話合いを通して全体で課題を解決する楽しさを感じさせるため、授業づくりにおいて教師の働きかけを工夫し、主体的で対話的な学びの実現に向けた指導の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

各教科等での授業及び日常の指導の中で、他者の意見と自分の考えをつなげて話し合う力を育成することを意識した日常の指導を行うことによって、主体的で対話的な学びを実現することができるのではないかと考える。

(1) 教材の特性（価値）及び系統性や児童の実態、学習内容から、児童が身に付けるべき（育てるべき）学びの力を明確にし、児童に問題解決の必要感をもたせ、児童の思考を促す方法を工夫する。

(2) 各教科等での授業及び日常の指導の中で、他者の意見と自分の考えをつなげて話し合う力を育成することを意識した指導を行う。

４　研究内容

(1)児童の問題解決への意欲を喚起する発問・提示の工夫
(2)ファシリテーションを中心とした教師の働きかけの工夫（構造的な板書も含む）
(3)多様な考えを共有し、自分の考えを深めていくことができる話合いの工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	本時の目標
6	26	第１回授業研究（要請訪問） ４年１組　算数「台形と平行四辺形」 授業者　大沢　泰尚 講師：八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事　小向　一樹　氏	カードの点をつないで色々な四角形をつくり、辺の平行関係に着目して分類する活動を通して、台形と平行四辺形の性質について理解を深める。
10	25	第２回授業研究 ２年１組　算数「三角形と四角形」 授業者　松村　典佳	三角形の紙を２つに切って三角形や四角形をつくり話し合うことを通して切り方の共通点を見つけ、三角形や四角形についての理解を深める。
11	29	第３回授業研究 ６年１組　算数「場合を順序よく整理して」 授業者　井沼　志穂	いくつか選んで組み合わせるときの場合の数が何通りあるかを、順序よく整理して求めることができる。

(2)一般研修

月	日	内容・講師・概要等
7	5	救命救急講習会（講師　八戸消防署　署員　）
8	22	是川縄文遺跡文化についての研修会(講師　是川縄文館　副参事　小久保　拓也　氏)
9	6	校内研テーマ「多様につなげて話し考える子の育成」についての勉強会 （講師　是川小学校　校長　新山　聡）
9	27	先生対象の合唱指導法講習会 （講師　尚美学園大学大学院　名誉教授　竹内　秀男　氏）

６　研究の成果

(1) 既習との違いに気付かせたり、上手く解決できない場面を提示したりするなど、児童の問題解決への意欲を喚起する発問・提示の工夫に取り組んだ。前向きに課題に取り組む児童の姿が見られ、主体的に問題に関わろうとする力が高まった。

(2) 構造的な板書をもとにした話合わせ方として、児童の考えをホワイトボードに書き出させて比較する、出された児童の考えを黒板上で対比させて考えさせる、板書と児童のノートを一致させ個人・グループで思考させた上で、意味や良さについて学級全体で考えさせる、というように構造的な板書について提案性のある授業に取り組んできた。研究授業を重ねるにつれて、日常の授業でも板書を工夫し、話合いを活性化させる意識や力が高まった。また、授業の展開に合った板書や児童の意見を生かした板書の工夫は、児童同士で意見を聞いたり、自分の考えと比較して話したり、板書を見て考える場面が多くみられるようになり、つなげて話す力の育成に役立った。

７　研究の課題

(1)学習がスムーズに進展しない場面があった。原因の一つとして、対話の中での教師の発問による焦点化が上手くいっていないことが考えられる。着眼点をはっきりさせて意見を引き出したり、話し合わせたりするなど、授業者がその時間の目標をより意識しながら、その場に適した発問を考え投げかけていく必要がある。

(2)問題意識をもって課題に取り組む力は育ってきたが、自力で最後まで解決しようとする点に弱さがある。問題解決的な学習を繰り返すことで対話して学ぶことへの興味・関心を高めさせていくことが必要である。

（記入者　　大沢　泰尚　）